

動いて、笑って、考えて… 心も体もハツラツと

堂林自治会『むらさき倶楽部』



全員でトーンチャイムを演奏。美しい音色に、心がほぐれるひと時を楽しみ

堂林自治会のカラーは紫色。それにちなんで名付けられた『むらさき倶楽部』は、発足から8年。地域の人々が学び・楽しみ・つながる場として、充実した活動を続けています。

平成20年に堂林地区の『高齢者いきいき事

運動まで内容は多彩。まさに小さな文化サロンです。中でも年に数回開催されている『音楽セラピー』は、楽しく脳の活性化ができる人気。この日は2チームに分かれ、リズム楽器と動作だけで曲を表現し、相手チームに曲名を当てさせるゲームに挑戦。指導にあたる音楽療法士の勝山真弓さんによると、「この

会場は長く続いている方が多いせいか、他と比べて積極的でレベルも高い」のだとか。夫婦で参加している

大鹿敦生さん・和子さんは「毎回違う内容なので飽きません。計画してくれる皆さんに感謝しています」と話してくれました。

表の望月由美子さん。活動は主に堂林自治会館で毎月1回、土曜日に実施。奇木細工や陶芸などの教室から、各分野の専門家を招いた講座、ペタンクやスポーツ吹き矢などの軽

「役割を持って行事運営に関わることで、やりがいや喜びを感じてもらうために、地区の夏まつりやどんど焼き、防災訓練などに参加しています」と望月さん。来年2月には、

活動100回目を記念して、子ども会などとの共同企画も計画中とのこと。



歌詩とメロディーに頼らず曲を表現するアイデアを出しあう参加者の皆さん

静岡市清水市民活動センター10周年

市民活動をアピール

ドリプラで記念イベント開催

市民活動の支援を目的に開設された『静岡市清水市民活動センター』は、今年開設10周年。その節目を記念して、10月30日に開催された『市民活動FEST 2016』は、初めて会場をエスパルス



ドリムプラザに移して行われました。「例年の周年イベント会場（港町の同センター内）にくらべ、多くの一般の方や子ども達も、興味を持って立ち寄ってくださいという」と話すのは、活

動内容をスを出展ひとつ『流の会』会長。ほかも来場者もパンフレット、明に耳を

うみかぜ

駿河湾の宝石と言えはサクラエビ。白いダイヤと言えは、そう、シラスウナギだ。古くから日本人の舌になじんできたウナギ。江戸時代には寿司とともに江戸の代表的な食文化となった。天然ウナギだけにとどまらず、シラスウナギから生魚に育てる養殖も明治時代に本格的に始まった。その発祥の地の一つに本県の浜

名湖が、そんなウナギから、だが、ヤ。近は正にうなウナ本費者に在に価格一つにの指摘が季から